

沖縄カトリック中学高等学校
学校通信

野ばら 1月号

発行
沖縄カトリック中学高等学校
〒901-2215
宜野湾市真栄原3-16-1
TEL 098-897-3300
<http://www.catholic-okinawa.ed.jp/>
2020年1月7日(火)

頂いた三つのパンから考える

校長 夏見隆晴

『聖書』には、「パン」と言う言葉が、80回ほど出て来ます。パンは、イエス・キリストがこの世で過ごされた地方では、代表的な食物として、必要欠く事の出来ないものでありました。それ故、人々が生きていく上で、最大の関心を寄せていた事は、言うまでもありません。後一つ、食糧として魚が登場します。これも、イエス・キリストが教えを説かれた場所ガリラヤ湖畔では、普通に獲れたもので、人々の口に入った代表的な食べ物でした。

イエス・キリストは、御父のもとに戻られた今も、人間を愛するが故に、私たちのために、喜びも悲しみも共にしてくださっています。そして何時の日か、神の国へと招き入れられ、そこで永遠の喜びを享受できるようにと、私たちのこの世での日々を導いてくださっているのです。この世は私たち人間にとって、他人より持てる物が少ないとか、自分は何故人から愛されないのかなどと、勝手に自分のことを憐れんでいるだけかもしれません。

人間として生を受け、パンに不自由させられた記憶も無く、親の暖かい保護の下で育てられた子としては、己の幸せを感謝するのが当然であるのに、その心の中を素直に神や親に向けて感謝したということもあまり無く、これで信じる神に向けても感謝していると言えるのかと複雑な気持ちです。飢えを感じた事も無く、それを当然と今日まで来る事が出来たというのは、計り知れない神様の恵みであったかと今は感謝しています。

それでも、食べることは勿論、身に着ける物まで、人並み以上に配慮してもらっていた学生時代、恵まれない子供達の事にも気付かされ、小さくされた子供達の施設を訪問し、共に遊びなどしておりました。わたし自身、近い将来、何が出来るか、と悩み模索していたのでしよう。他人に迷惑を掛けること無く、衣も食も自己の責任で生きていかなければと考え始めていたのでしよう。当時の私の課題は、自立にあったのでしよう。

大学生と言っても全て親がかりで、まだまだ幼さが残っていた私に、自分の力で食べると言う事を教えてくださったのは、アメリカ人教授でカトリック司祭でもあった、私にとっては「恩師」となった方でした。先生は一言、「聖書には、来りて食べよ」とイエス・キリストの言葉が出ているよ」とお教えくださったのです。その時、まだまだ幼かった私は、聖書にはそんな事まで書いてあるのか、と改めて考えさせられたお言葉でした。

カトリックの洗礼を受け、カトリックの大学に学び、カトリックの学校に就職し、今日まで神様の子らと共に学び、神の教えを实践出来れば、私の人生は最高だと考え、神の教えに今も耳を傾け、現実、もっと積極的に神様の思いを生きるために、人を愛し、人の為になる働きに努め、食し、眠り、健やかな毎日を送り、神様がお望みになっておられるように、人のためになる日々を、これからも送ることが出来れば、幸いと祈っております。

キリストは予期しない時に来る

石垣 真秀

私の目の裏にいつまでも残り続けている事があります。イタリアの教会でミサに通っていた頃の事です。街ではちょうど塩ぬきのパンがパン屋に並び、街角のパールでも人々が、なんとなく目覚ましのエスプレッソ以外は口にしなくなる時期でした。その頃私は週に一度ジェノヴァのサンタ・サビーナ教会のドン・アルマンド神父のもとに入信の為の講座を受けに通っていましたが、その教会の近くには経済的にかなり困窮した人たちが暮らす一画がありました。教会の入り口付近には時々その様な人たちが、ボロをまとって地べたに座り、物乞いをする姿が見られました。この人たちは教会に出入りする人たちからお金を恵んでもらっていました。深くシワの刻まれた老人である時もあれば、年端もいかない幼い子供である場合もあります。

“Un po' di grazia! Per favore... Spiccioli! Per favore.”

「お恵みを！お願いしますから… 小銭でいいんです。お願いします。」

彼らの事を怠け者と呼ぶ人たちもいました。ただ黙って小銭を手渡す人もいました。かれらは、この社会のあらゆる問題の中で生きづらくなった人たちです。例えばイタリアには南北問題があって、北のイタリアは大陸に接続し、経済的に裕福です。それに対して南の半島のイタリアは北の人たちからは想像もつかないほど貧困にあえいでいます。また一方でイタリアには周辺の紛争地域から、例えば中東から、あるいはアフリカ大陸から、東ヨーロッパから、政治難民・経済難民・紛争から逃れるために命がけて逃げてくる人たちは引きも切りません。そしてそれは今に始まったことではなく、歴史的に言って、キリストの時代、あるいはそれ以前からかもしれません、続いているのです。

私の子供の頃にも、沖縄にはその様な物乞いと言われる人たちが居た事を思い出しました。今は、ホームレスと名前を変えていることも知っていますが、でも、物乞いをする姿をほとんど見なくなりました。彼らがどのように生きているのか、生きるための糧を必要としているはずの人たちは、どのようにそれを得ているのか、気になります。

ドン・アルマンド神父の聖務室で1対1で聖書の講義を受けている時でした。お昼ごろで、教会の事務の人たちもお昼の準備のために出払ってしまって、聖堂にもほとんど人の居ない時でした。ドアをノックする音が聞こえ、神父が答えると、遠慮がちに小さく開けたドアの影に人が立っていました。彼を見た神父は何かを悟った様子で、私に「ちょっと待っていなさい。」と言って、上着をとり、その人と出て行きました。しばらくして神父が戻って来ると、「今日はこれまでにしよう。来週また来なさい。教えたとおりに、この時期はあまり食べてはいけないうい。私も少しだけ食べるつもりで持っていたお金もなくなってしまったから、今日は食べない。」とニッコリ笑ってお開きになりました。神父はその人に財布の中をすべて恵んでしまったのでしよう。

私の眼裏の記憶はそこまでです。その時の私はまだ駆け出しの入信希望者で、なにか深く考えさせられることがそこにあることを思いながらも、自分の考えを深めることができませんでした。今はそのことについてもう一度思いを巡らせながらこれを書いています。

そもそも何故、私がその事を思い出しているかというと、最近読んでいる書物からの影響なのです。本のタイトルは、「イエスという人の物語」(Un tal Jesús)という本です。その本の、第29章貧しいものの小麦という所に書かれていることが私の心を動かしたのです。そこにはルカによる福音書第6章安息日の主(1節~5節)の内容に関する物語が、口語調よりも具体的な、社会の最下層の人たちがつかうであろう言葉遣いを用いて書かれています。(イエスが当時のイスラエルの最下層の出の人であることから、そのような表現が用いられています。)その年の収穫間近の作物が雹の嵐でやられたのはイスラエルの安息日の土曜日の事だった。人々はこの年が大飢饉となることを噂しながらイエスと話をします。

- 男 「金持ちは常にまるでネコの様に慎重に歩くからな。やつらは絶対に失うことはねえ。やつら小麦の値段を金みてえにつり上げるぜ。」
- 女 「奴ら、私らを殺すつもりかい？」
- 老女 「わたしらの昔の律法（モーセの律法）はなんて言ってんだい？ 貧しい者は金持ちの畑の余分な分を集めることができるんだよ。それで、誰もイスラエルでは飢えることがないんじゃない。」
- 男 「ばあさんの言うことは正しい。モーセは金持ちに命令してんだ。不幸な奴らが何か食うことができるように金持ちが余分な食べ物を与えるようになってな。」
- 女 「何を待ってんだい？ ナザレの見知らぬ人（イエスのこと）がわたしら皆に言ったように、神はわたしらの側にいるんだよ。エレアザルの畑に行って作物を集めようじゃないかい！」

こうしてイエスは飢えた人々と共に金持ちの畑に入って麦を集めます。そこで当然畑の所有者エレアザルと押し問答になりますが、イエスは引きません。会堂でローマ兵を交えての裁きにかけられます。そこでもイエスは、イスラエルでモーセの律法が曲げられている事を訴え、たたかいます。イエス達は、律法学者やラビたちから、聖堂から立ち去るように命じられますが、民衆が大勢でイエスの主張に賛同したため、立ち去りませんでした。

この本にはこの様にわかりやすく、イエスの行ったイスラエルにおける平和的な革命がどの様に行われていったのかが書かれています。

キリストの時代の律法である、モーセの律法（モーセ五書：創世記・出エジプト記・レビ記・民数記・申命記）のレビ記（23章22節）と申命記（24章19節）にはそれぞれ、畑から穀物を刈り取る時は、その畑の隅まで刈り尽くしてはならない事、収穫後の落ち穂を拾い集めてはならない事、貧しい者や寄留者のために残しておくべき事や、畑で穀物を刈り入れるとき、一束畑に忘れても、取りに戻ってはならない事、それは寄留者、孤児、寡婦のものとするべき事等が定められていました。



Jean-François Millet 【*Des glaneuses*】

今、私のデスクトップパソコン（ラズベリー・パイ）の背景は、この絵を表示して、時間があると考えています。イエスは社会の最低辺の人たちのための革命者でした。非暴力主義の革命という、インドのガンジーを思い浮かべるひとが多いと思います。ですが、それ以前にイエス・キリストの姿があった事を思い出したいと思うようになったこの頃です。



1月の行事



1月7日(火)	生徒集会 授業開始 高1~3 Kパック スクールカウンセラー来校日
8日(水)	高2~3 Kパック
9日(木)	スクールカウンセラー来校日
11日(土)	家庭学習日 前期入試
14日(火)	スクールカウンセラー来校日
16日(木)	中学 学力推移 高1~2 総合学力テスト
17日(金)	漢字検定(放課後)
18日(土)	総合 PUP⑧ 学校見学会⑤ 大学入試センター試験1日目
19日(日)	大学入試センター試験2日目
20日(月)	高3 大学入試センター試験自己採点
21日(火)	スクールカウンセラー来校日
21日(火)~25日(土)	高2 修学旅行
22日(水)	小5 高1 交流会
25日(土)	総合
29日(水)	生徒会選挙 (下校 17:00 頃)

あけましておめでとうございます



本年もよろしく願っています

★赤い羽根共同募金活動に関する報告★

2019年12月23日月曜日の生徒集会で社会福祉協議会への贈呈式を行いました。

募金合計額 **41,667** 円

本紙面にて報告いたします。皆様のご協力ありがとうございました。